

週日の説教

金 大烈 神父 2009年5月29日(金)

《信仰は、軽いものではありません》

今日の福音(ヨハネ 21・15-19)も、ものすごく有名な物語です。

皆様、今日イエス様は、ペトロに三度「あなたはわたしのことを愛しているか。」と聞きましたね。一度目と二度目に「はい、わたしがあなたを愛していることはあなたをご存知です。」と答えたのに、三度目にもまた同じ事を聞かれました。だから、ペトロは悲しくなって、「わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」ともう一度答えました。

イエス様はなぜ、三度も同じ質問をなさったのでしょうか。結論を申し上げます。イエス・キリストを愛することは、そのくらい難しい、ということです。十字架を背負ってイエス様に従うことは、ものすごく難しい、ということイエス様が示されているのです。それなのに、私たちはものすごく軽く考え、『朝起きたら祈り、食前食後に祈り、日曜日にミサに与る。人に聞かれたら私はカトリック信者ですと答える。』そのくらいでイエス様に従えると考えています。イエス様は、そのくらいでは、とても完全に従えるものではないと、おっしゃっているのです。そして「愛しています」という三度目の告白を聞いて、イエス様は、「あなたは、若いときは、自分が行きたいところへ行く。しかし、年をとって私の使命を受けることになれば、行きたくないところへ行かなければならないし、死ななければならぬ。」と預言されます。

私たちには、殉教の機会とは与えられないかもしれませんが、しかし、まじめに信仰の生活をしようとするならば、ごくわずかなことに腹を立てて人を憎むのではなく、世界の平和、この国の正しさ、いろいろな意味や価値があるものに力を入れるべきだと思います。結局、人生は過ぎてしまうものです。もっとやりがいのある、価値のある生き方をしてほしいと、いつも命じているのがイエス様の御心ではないでしょうか。

皆様、同じようにイエス様が三度、「あなたはわたしを本当に愛しているのか。」という質問をなされれば、たぶん皆様は「はい、愛しています。」と答えるでしょう。しかし、その「はい」という言葉には、ものすごく重い、人間的な責任がついてくるのを意識しなければなりません。信仰というものは絶対に軽いものではありません。必ず結果があるものです。もっと心をこめて、毎日毎日、一生懸命に信仰生活をしよう、自分と約束することが何よりも必要ではないかと思ってみました。

これからおよそ10分後に、韓国の盧 武鉉(ノムヒョン)前大統領の火葬が行われます。

今日は、朝8時からずっとテレビでお葬式を見ていました。そして、盧 武鉉 前大統領が亡くなり、国全体が涙に沈んでいる姿を見て、悲しみとともに嬉しくもなりました。それは一つの希望だからです。人々は胸にリボンをつけていました。リボンには、「あなたを守れなくて申し訳なく思います。これからはあなたの志を私たちが必ずなす遂げます。」と書いてあります。そのリボンに胸をつけて涙を流している国民の姿を見て、「悲しいこと」、「見送らなければならないこと」、「この世でもう二度と会えない別れ」それらによって国全体が本当に悔い改める機会が与えられたことに感謝したいと思います。

私は、彼がとても好きでした。「彼にもいろいろ十字架があるのだろう。しかし、何とか乗り越えるのだろう」と思っていました。しかし、彼を支えていた人々も彼一人を残して全部去ってしまいました。それは、権力を振るっているいくつかの権力集団によってだまされてしまったからです。しかし、彼には自分が信じてきた信念というものがありませんでした。誰かを裁くタイプではなかったのです。自分が正しければいつかは必ず明らかになる、という信念を持っていたのです。彼は、とても庶民的な人間で、その人間性を考えても私には頭の下がるような人格の所有者でした。しかし、結局彼は、

権力を振るう者に追い出され、いろいろな陰謀により、裁判に立つ恥を体験したのです。彼が一番恥と考えたのは、自分の家族一人一人にそれぞれ罪名をつけて、裁判に立たせたことでした。彼は、そういう権力者達に虚しさを感じたのでしょう。そして、いつも自分に従って来た人々が権力の怖さにより逃げてしまう姿を見て、とても寂しかったと思います。

彼は、カトリック信者で、洗礼名はユストでした。ユストというのは、ラテン語で「正義」を意味します。結局、ユスト・盧 武鉉 はカトリック信者としては絶対許されない、自殺を選んだのですが、私はこのミサを通してその赦しを求めます。しかし、彼の死によってたくさんの人々が悔い改める機会になったことに、私は感謝します。

今の政権は、これからどのようになるのか、おそらくひどく怖がっているでしょう。私は、この政権が始まったときに皆様に、「長続きはしない」と言ったと思います。今、そのような雰囲気になっています。そして、そのような現状を見て、今まで 盧 武鉉 前大統領に直接批判を浴びせていた者達も、みんな涙を流しながら、「間違えました。赦してください。」という祈りをしていることが、インターネットで流されています。更に、いつも前大統領の非難ばかりしていた与党の人たちも、国民が怖くて、「彼は立派な人でした」というお世辞を言っています。

このような、一つの小さな国の中の出来事ですが、やはり正義はいつか表れるのです。彼は、見送った国民により、将来は正しく評価されて、歴史に残ると思います。私たちカトリック信者は、目に見えるものが全てではないことをいつも意識しなければなりません。何にだまされているか分かりません。どこの国でも、どの世界でも、悪の勢力は必ず仮面をかぶって国民をだますものです。私たちは、いつもそのことを意識して、正しい道、正しい良心を持ちながら生きられるように祈らなければならないと思います。

そのためには、小さなこの共同体の中で、まず自分が本当に正しさを求めようとするのが何よりも必要ではないかと思ってみました。

ありがとうございました。